

令和5年度 学校教育自己診断結果および分析

資料 1

● 実施時期 令和5年12月

● 回答生徒：75名（1名増） 保護者：9名（2名減） 教職員：17名

※昨年度：生徒：74名 保護者：11名 教職員：20名

1. 生徒の自己診断結果

○肯定率が高い項目	肯定的意見(回答A・Bの合計)(%)	R4	R5
13	先生はいろいろな問題を見逃さず対応してくれる。	91.7%	97.3%
16	学校は、みんなが楽しくおこなえるよう学校行事を工夫している。	93.0%	97.2%
22	個人情報についてプライバシーが守られている。	93.0%	95.9%
2	この学校には、他の学校にない特色がある。	92.9%	94.7%
3	学校は生徒の意見をよく聞いてくれる。	95.8%	94.7%
15	学校で地震や火災などの災害がおこった場合、どのような行動をとればよいか、具体的に知らされている。	97.2%	94.7%
23	ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある。	90.3%	94.7%
27	人権の大切さについて学ぶ機会がある。	95.8%	94.7%
7	教え方にさまざまな工夫をしている先生がいる。	95.8%	94.6%
31	教室・特別教室・運動場などは、授業や生活がしやすいよう整備されている。	94.4%	94.6%

・半分以上の項目において肯定率が90%を超えている。「13. 問題への対応」「16. 楽しい行事の工夫」の項目が昨年度よりも肯定率が大きく上昇している。教員の「9. カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」や「20. 人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導」、「17. 学校行事が魅力あるものとするために工夫・改善している」の項目の教員肯定率は100%であるため、教員が取り組んでいることがしっかりと生徒へ伝わっていると考えられる。

・「3・23・27・7」の項目も高い肯定率を示しており、教員とのコミュニケーションや授業やホームルームなど学校のことについても肯定的に捉えていることがうかがえる。将来や進路のことについての意識が上がってきていると考えられるので、生徒たちが幅広い進路から自身にあった進路選択ができるようにホームルームや総合的な探究の時間において系統的な指導ができるようにしていきたい。

○肯定率の低い項目	肯定的意見(回答A・Bの合計)(%)	R4	R5
28	授業や部活動での活動を通して、地域の人々とかかわる機会がある。	72.9%	75.7%
18	部活に入っている人だけ回答 → あなたは部活動に楽しく取り組んでいる。	84.8%	78.9%
10	環境、国際理解、福祉ボランティアなどの新しい課題について学習する機会がある。	71.4%	79.5%
6	授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある。	76.7%	80.0%
21	教室以外に、保健室などで落ち着ける場所がある。	83.1%	80.0%
5	授業では、実験・観察・実習などの時間がある。	88.7%	81.1%
1	あなたは学校へ行くのが楽しい。	77.8%	82.7%
17	あなたは学校行事(体育祭や文化祭をなど)に楽しく取り組んでいる。	85.7%	82.7%

・肯定率の低い項目ではあるが、一番低い項目でも75.7%となっている。どの項目も昨年度に比べると改善傾向にある。その中でも「1. 学校へ行くのが楽しい」の項目は肯定率が上がった。「18. 部活動は楽しい」と「17. 行事は楽しい」の項目は肯定率が下がったが、肯定率の開きは少なくなった。しかし、この2つの項目が下がっているため、授業以外の学校生活の場面で生徒が楽しめる時間を工夫・改善していくことが今後も必要になってくると考えられる。

・「10. 新しい課題について学習する機会」の項目は肯定率が低いですが、昨年度よりは大きく向上している。教員が授業やホームルームにおいて工夫をしていることが生徒たち肯定率の向上につながったのではないかと考えられる。卒業後、さまざまな課題の中で生き抜く力が必要であるので、「6. 自分の考えをまとめたり、発表する機会」や「5. 実験・観察・実習の時間」などの肯定率も向上していくように今後もさまざまな工夫・改善をしていく必要がある。

2. 生徒、保護者、教職員の診断結果の比較

○肯定率の高い項目・高くなった項目

「学校に対する項目」

生徒：この学校には、他の学校にない特色がある。	《94.7%》
保護者：この学校には、他の学校にない独自の教育活動に取り組んでいる。	《88.9%》
教職員：この学校の教育活動には、生徒や保護者のニーズにあった特色がある。	《94.1%》

「教育活動に対する項目」

生徒：学校へ行くのが楽しい《82.7%》授業はわかりやすく楽しい《92.0%》 学校は、みんなが楽しくおこなえるよう学校行事を工夫している。《97.2%》	
保護者：授業がわかりやすく楽しいと言っている《88.9%》	
教職員：生徒のレベルに応じた分かりやすい授業をつくる努力をしている《100%》 学校行事が生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている《100%》	

「学校に対する項目」では、学校の特色に関する項目で肯定率が高かった。完全単位制という他の学校にはない特色が生徒や保護者のニーズにあっているという結果になった。この特色を活かすことができるよう教育活動の工夫・改善をしていくことが必要である。

「教育活動に対する項目」では、昨年度と同様に生徒と保護者から「学校や授業が楽しい」などの項目が高い肯定率を示した。教員が生徒の学力や学習状況を踏まえて授業や学校行事の内容や展開を検討し、生徒・保護者がそれを肯定的に捉えているという関係性がうかがえる。授業改善や学校行事の工夫の結果、昨年度よりも少しではあるが肯定率も上昇した。生徒にとって「分かる・できる授業」の展開を学校全体で取り組む姿勢が定着し、学校行事が楽しいなどの肯定的な意見が増え、楽しいと思える生徒が増えたと考えられる。

○肯定率の低い項目

「学校に対する項目」

生徒：授業や部活動での活動を通して、地域の人々とかかわる機会がある。	《75.7%》
保護者：この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。	《11.1%》
教職員：地域の人々と接する機会を持っている。	《41.2%》

「教育活動に対する項目」

生徒：授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある。	《80.0%》
保護者：子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。	《66.7%》
教職員：他の教員の授業見学や授業評価などを行い授業改善に努めている。	《70.6%》

「学校に対する項目」では、昨年度と同様「地域の人々との関わり」「保護者の行事への参加」の肯定率が低い結果となった。昨年度と比べ地域との連携は教員、生徒ともに肯定率は上昇したが、まだまだ低い数値ではある。さまざまな課題に対して生徒が社会参画の経験ができる取り組みを検討していく。他にも「教育情報の提供」や「進路情報」「家庭との連携」の項目の肯定率が減少していたので、進路情報を含めた学校情報をホームページ等の紹介や活用、保護者と担任の連携を強化することで保護者の行事参加へつなげるのではないかと考えられる。

「教育活動に対する項目」では、生徒の項目は全体と比べると低い数値ではあるが、昨年度よりは改善することができた。教員「授業改善に努めている」の項目は減少している。今年度は教員定数が減になり、生徒指導や校務の負担も増え、他の教員の授業見学をする余裕が少なくなったのではないかと考えられる。